

## 令和3年度 学習分析事業 改善計画 三原市立第三中学校

### 1. 本年度の結果

#### ①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		国語	数学	理科	社会	英語	全体
1年	結果 偏差値平均	50.0	51.9	50.8	53.4	48.8	51.0
2年	結果 偏差値平均	46.1	46.0	46.5	46.6	46.9	46.4
3年	結果 偏差値平均	48.4	50.6	47.0	47.7	50.3	48.6
全体	結果 偏差値平均	48.2	49.5	48.1	49.2	48.7	48.7

#### ②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第3学年対象)

教科	国語	数学
結果 (対県比)	61 (94)	48 (84)

### 2. 調査から明らかになった課題

#### 【年度当初の学力について】(NRTをうけて)

1年生では4教科、3年生では2教科が、偏差値50を超えた。2年生では全教科が50を下回った。「読む力」「読む意欲」「読み取ったことをまとめて書く力」が課題である。

- 国語では、「じっくりと集中して」読めば、比較的容易につかめる問題でも、通過率が低いものがある。問題を「最後まで読んでいない」誤答も多い。
- 数学では、文やグラフなど、資料を活用して答える問題に課題がある。
- 理科では、実験に関する操作やその結果が知識として定着していないことが課題である。自分の考えや実験結果を自分で表現する力をつけていくことも課題である。

#### 【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)

「読む力」「読む意欲」「まとめて書く力」に課題がある。また、記述問題の無答率が高い。

- 国語科課題  
記述式の問題が正答率が県平均よりも低く、無答率も高い。「意見文の下書きの構成の工夫について自分の考えを書く」問題の正答率が低い。「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」問題の無答率が高かった。「記述」で答える問題に課題があり、「読む意欲」が弱い傾向がある。
- 数学科課題  
図や表をもとに考える問題について、文章で解答する問いの正答率が著しく低い。また、問題文の量が最も多く、複数の条件に従って記述する問題は、選択式であったにも関わらず、正答率が低い。問題文を読解する力が課題である。

### 3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<b>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</b> ○「伝える」に力を入れ、パブリックスピーキング能力の向上と学習内容の深い習得を目指す。 ○「授業づくりの徹底5項目」に基づく指導 ①めあての提示 ②めあての焦点化 ③思考時間の確保 ④ペア学習・グループ学習 ⑤めあてに対する振り返り ○「問いの設定」を意識することで、つけたい力をより明確にした指導にしていく。 ○知識や技能を活用する場を意図的に設定し、学習意欲を向上させるとともに、生きて働く学力を育む。	①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案 ②学校経営会議において改善計画の共有 ③全体研修による目指す授業の共有 ④一人1指導案による研究授業 ⑤授業交流週間 (1学期:2年部, 2学期:3年部, 3学期:1年部) ⑥非連続型テキスト問題を各教科の単元末に実施 ⑦無答率の分析・個別指導	①6月 ②6月 ③4月, 6月 ④通年 ⑤1学期に10日間程度 ⑥各教科単元末及び年度末 ⑦単元末検査後	○Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点+1以上) ○標準学力調査(3学期実施)で全国比100を超える学年・教科を増やす。 ○定期試験等における記述型問題の無答率半減
<b>【学級・学習集団づくり】</b> ○全学級において、「三中スタンダードの遵守」を徹底する。 ○学期に1回「心の整理箱」(アンケート)を実施して、生徒の状況把握に努め、担任による面談を実施していく。 ○「三中チャレンジカップ」をとおして、クラスや縦割学級の団結力や、生活規律・学習規律の向上を目指す。	①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案 ②学校経営会議において各学級実態と改善計画の共有	①6月	○Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)